2012年(平成24年)9月22日

各位

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団
理事長　木村 隆昭

「平成24年度（第5回）ヤマハ発動機スポーツ振興財団・スポーツチャレンジ賞」候補者推薦のお願い

平素は当財団活動に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、このたび当財団では、第5回目となる「ヤマハ発動機スポーツ振興財団・スポーツチャレンジ賞」候補者の推薦公募を開始いたします。

ヤマハ発動機スポーツ振興財団・スポーツチャレンジ賞は、スポーツ振興において多大な実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した人物を表彰する制度です。平成20年度に表彰制度を創設し、今回で5回目の実施となります。

賞には功労賞、奨励賞の二つの賞があり、いずれの賞も、世界レベルのチャレンジや、スポーツ振興の進化・発展につながるチャレンジなどにおいて、そのプロセスと成果に対して大きな鍵を握り、かつ、これまで注目を浴びることの少なかった本来高く評価されるに相応しい「縁の下の力持ち」のチャレンジを表彰します。こうした「縁の下の力持ち」の存在にスポットライトをあて、そのチャレンジを称え、チャレンジの意義を社会に知らしめることで、新たなチャレンジャーにとっての励みとなると共に「努力は報われる」ということが社会に浸透していくことを期待しています。

つきましては、下記内容および概要書(別紙)をご確認のうえ、ご推薦をお願いいたします。

記

◆依頼事項　当賞に相応しいと思われるチャレンジ・人物をご推薦ください。

◆推薦方法　当財団あてでFAX送信してください。 ※別紙 推薦書をご使用ください。FAX:0538-32-1112

◆推薦期間　2012年9月22日(土)～11月15日(木)

◆賞の概要　別添の概要書をご覧ください

◆表彰式　別途ご案内

◆この件に関するお問い合わせ先

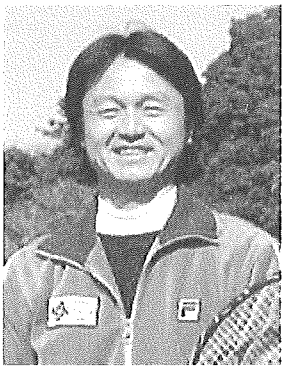
公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団　業務部　担当　河邊幸司　TEL. 0538-32-9827

ご参考

第1回 功労賞 中野 政美さん
北海道立旭川南高等学校柔道部元監督
1944年生 北海道出身

〔選考のポイントとなったチャレンジの軌跡〕
女子柔道の世界レベル選手育成と女子柔道の発展

旭川竜谷高校、天理大学を経て、1967年に旭川南高校(保健体育)に赴任。以来40年にわたり柔道部監督として選手を育成。インターハイや全国大会への出場。またアテネ、北京五輪で金メダリストとなった上野雅恵選手を始め、数多くの女子柔道選手を輩出し、旭川における柔道の普及、発展に貢献。現在は母校、旭川竜谷高校にて柔道の指導にあたる。



第1回 奨励賞 丸山 弘道さん
エリートテニスコーチ
1969年生 千葉県出身

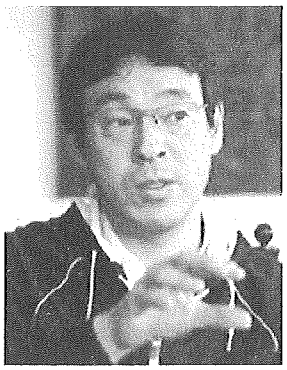
〔選考のポイントとなったチャレンジの軌跡〕
北京パラリンピック金メダルへのチャレンジ

玉川学園高等部を経て明治大学卒業後、一般企業に4年間勤務。その後財団法人吉田記念テニスセンターにてジュニア担当コーチとして選手を全国トップレベルに育成。同時に車いすテニスコーチとして、シドニーパラリンピック代表の山倉昭雄氏を筆頭に、世界ランキング4位の齋田悟司選手、世界ランキング1位の国枝慎吾選手のコーチを担当する。

第2回 功労賞 塚越 克己さん
元・財団法人日本アンチ・ドーピング機構 事務局長
1937年生 群馬県出身

〔選考のポイントとなったチャレンジの軌跡〕
日本のスポーツ医・科学の発展を牽引した「縁の下の力持ち」

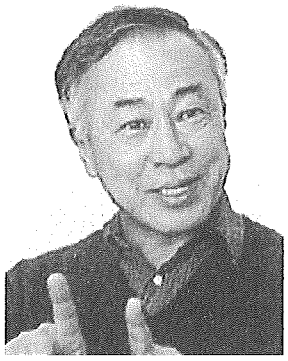
東京教育大学体育学部スポーツ科学研究室に在籍した 1960 年から現在に至るまで、約50年間にわたって日本のスポーツ医・科学の第一線で活躍した。東京オリンピックの前後から、アンチ・ドーピングに関する各種啓発活動を開始したのをはじめとして、高地トレーニングの研究と実践、強化指定選手制度の導入、日体協公認スポーツドクター制度の確立、青少年の体力に関する日中共同研究などのプロジェクト研究、秩父宮記念スポーツ医・科学賞の制定、国立スポーツ科学センターの設立等、さまざまなプロジェクトの推進役として多くの研究者のサポートを行なってきた。近年では、長年の研究テーマであったアンチ・ドーピング普及・啓発に情熱を傾け、(財)日本アンチ・ドーピング機構の設立と運営に尽力した。
日本のスポーツ医・科学の黎明期は、研究のための仕組みや機器など「ないものばかり」。測定機器がなければそれを設計し、仕組みがなければグランドデザインを描いてマネージャーにもなった。その姿は、まさに日本のスポーツ医・科学発展の「縁の下の力持ち」と言える。



第2回 奨励賞 増田 雄一さん
アスレティック・トレーナー
1961年生 大阪府出身

〔選考のポイントとなったチャレンジの軌跡〕
トップレベルのサポート技術を一般レベルに拡大する取り組み

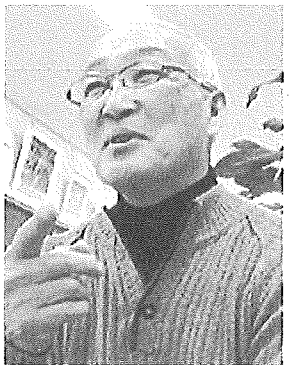
同志社大学では陸上部に所属。腰痛に苦しんだ経験から選手をケアする側に興味を持ち、「スポーツの現場で必要とされているのは鍼灸の技術」という思いに至る。卒業後は鍼灸専門学校に進み、母校・同志社大学陸上部のコーチ兼トレーナーとしてアスレティック・トレーナーの第一歩を踏み出す。1987年、ミズノ(株)に入社。社員トレーナーとして陸上、バレーボール、卓球、ラグビーなどの現場で活躍。1989年、ユニバーシアード・デュースブルク大会(西独)に帯同したのを皮切りに、各種の国際大会にアスレティック・トレーナーとして派遣される。2001年に(有)リニアートを設立し、スポーツに親しむ一般の人々を対象にカウンセリングや治療を開始。1992年バルセロナ五輪(陸上)、1998年長野五輪、2002年ソルトレイク五輪、2004年アテネ五輪、2008年北京五輪に帯同し、日本選手の活躍を陰で支えた。



第3回 功労賞 髙田 静夫さん
財団法人日本サッカー協会 参与
1947年生 東京都出身

〔選考のポイントとなったチャレンジの軌跡〕
日本人審判員の育成をめざした各種制度の確立と運用

日本を代表するサッカー審判員として活躍した現役時代は、ワールドカップ・メキシコ大会(1986年、日本人初の主審)やイタリア大会(1990年)で主審を務め、また1993年に発足したJリーグでは初代Jリーグ最優秀審判員賞を受賞した。1994年シーズンを最後に引退した後は、Jリーグ審判委員会委員長(1996年ー)、日本サッカー協会審判委員会委員長(1998年ー)、アジアサッカー連盟審判委員会委員(2002年ー)を歴任し、2006年より日本サッカー協会参与に就任。現役レフェリーとしての受賞歴は、上記Jリーグ最優秀審判員賞(1993年)をはじめ、日本スポーツ大賞(1986年)、FIFAスペシャルアワード(1996年)など。



第3回 奨励賞 中村 宏之さん
北海道ハイテクAC 監督
1945年生 北海道出身

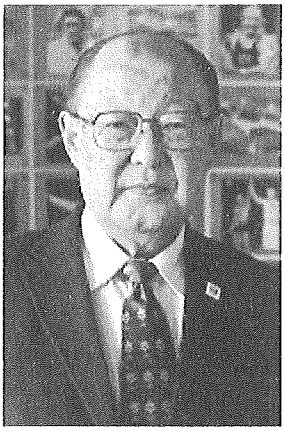
〔選考のポイントとなったチャレンジの軌跡〕
雪国から世界をめざすトレーニングの独自開発と実践

現役時代は、陸上競技三段跳びの選手として日本選手権で6位に入賞するなど活躍。日本体育大学卒業後は高校の教員となり、中標津高陸上部で指導者の道をスタートさせた(その後、恵庭北高に転任)。定年退職後も引き続き恵庭北高の陸上部を指導しながら、北海道ハイテクノロジー専門学校が運営する陸上競技のクラブチーム「北海道ハイテク AC」の監督に就任(2006 年)。所属選手である女子短距離の福島千里選手、北風沙織選手、寺田明日香選手らトップアスリートの指導を行っている。2010年、北海道陸上競技協会指導者特別勲功賞を受賞。

第3回 奨励賞 中北 浩仁さん
アイススレッジホッケー日本代表チーム 監督
1963年生 香川県出身

〔選考のポイントとなったチャレンジの軌跡〕
強化システムの大改革で日本初のメダル獲得にチャレンジ

6歳でアイスホッケーを始め、高校時代はカナダで、大学時代はアメリカのNCAAリーグで活躍。4年時に膝の靭帯を断裂して引退を余儀なくされたが、卒業後は日立製作所に入社して主に海外での事業に携わる。2002年、アイスホッケーの経験と見識を買われて、アイススレッジホッケー日本代表チームの監督に就任。勤務先である日立グループの支援を受けながらそれまでの強化策に改革を加え、2006年トリノパラリンピックでは5位、2010年バンクーバーパラリンピックでは銀メダルの獲得(パラリンピックの男子団体競技では夏季／冬季合わせて日本初)に貢献した。



第4回 功労賞 岸本 健さん
スポーツ写真家/株式会社フォート・キシモト代表取締役社長
1938年生・北海道出身

〔選考のポイントとなったチャレンジの軌跡〕
スポーツ写真家の草分けとして、スポーツ報道の機会拡大に貢献
ー50年間で約800万点のスポーツの現場を記録ー

1950年代後半に若松不二夫氏のもとでスポーツ写真の撮影を開始。1966年には日本初のスポーツ専門フォトエージェンシー(株)フォート・キシモトを設立し、収蔵点数で世界最大級のスポーツ写真ライブラリーに育て上げた。主な受賞歴は、モスクワオリンピック国際ポスターコンクールでの金賞受賞。日本選手団が不参加となったこの大会で、当時「日本唯一の金メダリスト」として注目を集めた。

第4回 功労賞 水谷 章人さん
スポーツ写真家/一般社団法人日本スポーツプレス協会会長
1940年生・長野県出身

〔選考のポイントとなったチャレンジの軌跡〕
独創的な表現でスポーツの魅力を伝え、スポーツ写真家の育成・環境整備にも尽力
ースポーツグラフィックの新たな境地を拓くー

1965年東京総合写真専門学校を卒業。1970年に富士フォトサロンで個展「限界に挑むスキー」を開き、これをきっかけにさまざまなスポーツの一瞬をクローズアップで表現する作品を多数の雑誌、写真集、写真展等で発表。1993年に日本スポーツプレス協会会長に就任。2001年からはJCIIスポーツ写真プロ育成セミナー「水谷塾」を主宰。主な受賞歴に講談社出版文化賞(1981年)、日本写真協会賞作家賞(2007年)など。

ヤマハ発動機スポーツ振興財団

スポーツチャレンジ賞
概要書

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞　要項

【名　称】　ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞

【賞の目的】

ヤマハ発動機スポーツ振興財団・スポーツチャレンジ賞は、スポーツ振興において多大な実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した人物を表彰することで、夢・目標に向かって「チャレンジすることの尊さ」を社会に訴求し、チャレンジスピリットの喚起、世界に翔ばたく逞しい新たなチャレンジャーの創出を目的に創設した表彰制度です。

競技、指導・研究、普及、ジャーナリズムなどスポーツに関する幅広い分野において、自己の目指す目標に立ち向かい、スポーツ振興、社会の活性化に大きく貢献した「チャレンジ」そのものを称え、たゆまぬ努力のプロセスとその成果に敬意を表するものです。なかでもそのプロセスと成果に対して大きな鍵を握り、且つ、これまで注目を浴びることの少なかった本来高く評価されるに相応しい「縁の下の力持ち」 的な人物にスポットライトをあて、そのチャレンジを称えることで、新たなチャレンジャーの励みとなると共に「努力は報われる」ということが社会に浸透していくことを期待しています。

【賞の種類】

	功労賞	奨励賞
対象となるチャレンジ	長年もしくは過去に行われ、現在のスポーツ振興の礎となるような貢献や、先駆的実績を誇るチャレンジで、これまでの長い期間、注目を浴びることの少なかった、本来高く評価されるにふさわしい、「縁の下の力持ち」的な存在であること。 例えば、指導者、研究者、審判、ジャーナリストなどによる、その競技やスポーツ全体の底上げに貢献、もしくは海外などで裾野拡大に尽力したチャレンジなど。	短期的もしくは中期的に行われ、その年、極めて高い成果をあげ、今後のスポーツ振興に大きな影響力の発揮が期待されるチャレンジで、これまで注目を浴びることの少なかった、本来高く評価されるにふさわしい、「縁の下の力持ち」的な存在であること。 例えば、指導者、研究者、トレーナー、サポートメンバー、審判、ジャーナリストなどによる、世界レベルの成果を発揮するにあたり、重要な役割を果たしたチャレンジなど。
表彰対象者	既に優れた成果をあげ功をなした人物	その年、高い成果をあげ、今後さらなる成長が期待される人物(チャレンジ発展途上人)
賞金および表彰	賞金 100 万円（チームの場合は 200 万円）／賞状／メダル／副賞	賞金 100 万円（チームの場合は 200 万円）／賞状／メダル／副賞

【主な評価視点】

①このチャレンジなくして、この成果なしという世界レベルのチャレンジ
②スポーツ振興の進化発展につながるチャレンジ
③これまで注目を浴びることの少なかった本来高く評価されるにふさわしいチャレンジ
④目指す目標のハードルの高さ
⑤プロセスとその成果がもたらす社会的訴求インパクト
⑥称賛・尊敬するにふさわしい品格・人間性

【スポーツチャレンジ賞選考委員】

選考委員長	浅見俊雄	東京大学名誉教授・日本体育大学名誉教授
選考委員	西田善夫	スポーツアナリスト（元 NHK 解説委員）
	福永哲夫	鹿屋体育大学学長・東京大学名誉教授
	伊坂忠夫	立命館大学スポーツ健康科学部教授・副学部長
	景山一郎	日本大学生産工学部教授
	草加浩平	東京大学大学院工学系研究科特任教授
	篠原菊紀	諏訪東京理科大学共通教育センター教授
	綿貫茂喜	九州大学大学院芸術工学研究院教授
	衛藤隆	社会福祉法人恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所所長、東京大学名誉教授
	遠藤保子	立命館大学産業社会学部教授
	川上泰雄	早稲田大学スポーツ科学学術院教授
	小西由里子	国際武道大学体育学部教授
	定本朋子	日本女子体育大学大学院研究科長・基礎体力研究所所長・教授
	田原淳子	国士舘大学体育学部教授
	山本裕二	名古屋大学総合保健体育科学センター教授
	ヨーコゼッターランド	スポーツキャスター（元バレーボール選手）
	今給黎教子	海洋スポーツインストラクター・冒険家
	村田亙	専修大学ラグビー部監督

【表彰対象者の決定フロー】

表彰対象者は、大学、学会、日本体育協会、競技団体、メディア、ジャーナリスト他からの推薦、および選定事務局からの推薦によりリストアップされた候補者の中から、2 段階の審査を経て、当財団理事長が決定します。なお、審査の過程において、表彰の基準を満たす対象者がいないと判断された場合には、その年の表彰を見送る場合もあります。

YMFS 事務局 候補者リスト作成 ※2012 年 11 月 15 日まで	⇒ 候補者リストの作成【選定方法】 ・大学、学会、日本体育協会、競技団体、メディア、ジャーナリストほか からの推薦 ・YMFS 事務局からの推薦
第 1 回選考委員会 ※2012 年 12 月中旬	⇒ 候補者リストから絞込み【検討事項】 ・候補者に関する情報をもとに追加意見、推薦など確認、審議 ※選考委員会全員の承認のもと、第 2 回選考委員会へ
第 2 回選考委員会 ※2013 年 1 月中旬	⇒ 受賞候補者の決定【検討事項】 ・チャレンジの品格とレベル確認 （社会から尊敬されるチャレンジであることの確認） ・YMFS の意思である新たなチャレンジャーの創出に対する貢献度 （⇒チャレンジの軌跡・成果の裏づけなど） ※選考委員会全員の承認のもと、理事長による受賞候補者の決定
表彰式 ※2013 年 3 月上旬表彰式予定	⇒ 別途ご案内

返信先(FAX):0538-32-1112

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団　河邊行き

恐れ入りますが、必要事項をご記入の上、11月 15日までにFAXにてご返信ください。

ヤマハ発動機スポーツ振興財団・スポーツチャレンジ賞　推薦状

推薦者氏名	
所属名	
連絡先	住所 TEL.
推薦する賞の名称	功労賞　　奨励賞
対象となるチャレンジ	
候補者名	
チャレンジの 具体的な成果	
主な受賞歴 （過去に受賞がある場合）	
推薦理由	